

続・次の本へ 全目次

- 天野雄之(会社員)——『理科系の作文技術』から『血涙十番勝負』へ
池内了(天文学者)——『ダーウィン以来』から『生き物たちは3/4が好き』へ
石毛弓(西洋哲学研究者)——『汲む(『ポケット詩集』)』から
『イワン・デニーソヴィチの一日』へ
石田光規(社会学者)——『自分に気づく心理学』から
『モダニティと自己アイデンティティ』へ
冲方丁(作家)——『神話の力』からステイヴン・キングの著作群へ
浦野光人(ニチレイ相談役)——『星の王子さま』から『般若心経講義』へ
大泉大介(新聞記者)——『働く大人の教養課程』から
『コミュニケーションのレッスン』へ
大友俊(会社員)——『共産党宣言』から『ドラマと方言の新しい関係』へ
岡本真(コンサルタント)——『水木しげるのラバウル戦記』から『ゲゲゲの女房』へ
賀川浩(サッカージャーナリスト)——『世界史概観』から『人文地理学原理』へ
加藤正文(新聞記者)——『ザ・原発所長』から『全電源喪失の記憶』へ
川井龍介(ジャーナリスト)——『ノー・ノー・ボーイ』から『米國日系人百年史』へ
川口昌人(フリーランス編集者)——『さもしい人間』から
『リベラルのことは嫌いでも、リベラリズムは嫌いにならないでください』へ
かんべむさし(作家)——『沢木興道聞き書き』から『漱石の思い出』へ
金益見(文化学者)——『日本という国』から『クオン・デ』へ
清野由美(ジャーナリスト)——『メタモルフォシス伝』から八木重吉詩集へ
久坂部羊(作家)——『罪と罰』から『新しい人よ眼ざめよ』へ
楠誓英(歌人)——『暁鳥記』から『光あるうち光の中を歩め』へ
楠見清(『美術手帖』元編集長)——『全ての装備を知恵に置き換えること』から
『ウルトラライトハイキング』へ
工藤啓(社会運動家)——『キャプテン翼』から『フットボールネーション』へ
後藤正治(ノンフィクション作家)——『鮎川信夫詩集』から『茨木のり子詩集』へ
最相葉月(ノンフィクションライター)——『中国朝鮮族を生きる』から
『立ったまま埋めてくれ』へ
坂口緑(社会学者)——『シカゴ育ち』から『アフター・アメリカ』へ
佐野淳也(社団法人理事)——『旅をする木』から『アルケミスト』へ
柴田元幸(アメリカ文学研究家、翻訳家)——『どくとるマンボウ青春記』から
『我が名はアラム』へ
清水真砂子(児童文学者、翻訳家)——『アンネの日記』から『第八森の子どもたち』へ
柘植伊佐夫(人物デザイナー)——『エドナ・ウェブスターへの贈り物』から
『デュシャンとの対話』へ
永井純一(社会学者)——『バンド臨終図巻』から『words for a book』へ
中島俊郎(英文学者)——『不思議の国のアリス』から『大博物学時代』へ
永松伸吾(災害経済学研究者)——『被差別部落のわが半生』から『はじめての部落問題』へ
西脇エミ(アーティスト)——『サガとエッダの世界』から『人間について』へ
念波(生物学者)——『生命を捉えなす』から『波紋と螺旋とフィボナッチ』へ
野口悠紀雄(経済学者)——『ジョゼフ・フーシェ』から『マゼラン』へ
野村進(ノンフィクションライター)——『カシアス・クレイ』から『マルカムX自伝』へ
菱田信也(劇作家、脚本家、演出家)——『上海バンスキング』から『馬車は走る』へ
日高真吾(文化財保存修復研究者)——『坊っちゃん』から『街道をゆく』へ
福田和代(作家)——『猿丸幻視行』から『隠された十字架』へ
古田靖(ライター)——『後宮小説』から『イラハイ』へ
堀晃(作家)——『腹立半分日記』から『摘録断腸亭日乗』へ
本城慎之介(保育士、元楽天副社長)——『わが息子よ、君はどう生きるか』から
『最初の質問』へ
真山仁(作家)——『自由からの逃走』から『蜜蜂の生活』へ
藻谷浩介(アナリスト)——『ルパンの告白』から『強盗紳士』へ
百々徹(服飾文化研究者)——『モードの迷宮』から『着倒れ方丈記』へ
森岡孝二(経済学者)——『女工哀史』から『わたしの「女工哀史」』へ
山内宏泰(美術館学芸員)——『津浪と村』から『ヴェネツィアと水』へ
山折哲雄(宗教学者)——『聖書』から『ブッダのことば』へ
山崎ナオコ(作家)——『本格小説』から『嵐が丘』へ
山本昭宏(日本近現代文学史研究者)——『万延元年のフットボール』から
『オバケのQ太郎』へ
山本博文(歴史学者)——『中国の赤い星』から『マオ誰も知らなかった毛沢東』へ
マイカ・ルプテ(ミュージシャン)——『アミ小さな宇宙人』から『美しい星』へ
和合亮一(詩人)——『書斎探訪』から『書斎の宇宙』へ